

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和七年三月度 入賞句一覧

投句数 五百四十七句

特選

永き日をなほ長くする波の音

大垣市

吉田 てるみ

永き日（日永）は、冬の去った喜びがあり、のどかでうらかな春の日を感じる
ことのできる季語である。
作者は海辺に居るのであるう。ゆつたりと繰り返される波音を聞いて、心身共に
リラックスされた様だ。
ナ音を重ねた頭韻も心地良い。

手話の指たがいに触れて卒業す

東京都世田谷区

関戸 信治

手話は手や指の形・動き・位置などによって意味を持たせ、さらに顔の表情やあ
ごの動きなども加えて相手と会話する表現方法である。
卒業して進路が別々になるのであるうか。その会話を指を触れ合って別れを惜
しむ様子に感動する。

撫牛の眉間のでかり梅咲ふ

岐阜市

廣瀬 あや子

撫牛は鋳物や素焼などで造られた臥した牛の像である。神社や商店に祀られ、撫
でれば吉事があると言われる。多くの人に撫でられた眉間は特に光沢がある。
傍に梅の花が咲き誇り、賑いが伝わってくる。咲ふ（わらふ）は舊が開くこと。

秀逸

雛飾る前歯抜けたる女の子

大垣市

兒玉 貴栄

受験終へ制服のまま寝入りたる

大垣市

傍島 隆

神官の的を射抜く矢春立ちぬ

不破郡垂井町

久保田 紘義

山笑ふとにかく妻と六十年

大垣市

村田 通夫

あふれだす赤子の喃語初つばめ

養老郡養老町

田中 紫香

後ろ髪ふんわり巻くや春の宵

安八郡神戸町

大槻 恭子

追伸の三行ほどの余寒かな

東京都江戸川区

羽住 博之

赤シヤリに初春のせて寿司回る

京都府宇治市

中村 広美

鬼役と豆分け合ひて節分会

安八郡安八町

黒柴和音

山笑ふ座るにもつてこいの石

東京都武蔵野市

木嶋 純子

入選

靴墨のくるくるのびて春來たる

大垣市

村瀬 佐智子

春の雪抹茶いただく古希の昼

大垣市

香田 末代

神前のキャラクターぐつ春を待つ

大垣市

傍島 豊子

小さき手でカレー真中に寒卵

大垣市

傍島 隆

墨蹟のかすれのびやか春を待つ

不破郡垂井町

川瀬 慶泉

雪煙り放ちて竹のゆらぎ立つ

不破郡垂井町

大羽 志風

自在鉤小さく軋む余寒かな

東京都新宿区

花澤 ちいこ

山城の砦に残る寒さかな

大垣市

臼井 秀子

淡き夢持ちつつけてる春帽子

揖斐郡大野町

藤田 涼子

香煙のたゆたうままの春障子

大垣市

浅野 翔泉

卒業歌かすかに揺るる胸の花

本巣市

山田 香山

草の芽の真珠のごとく雨上がり

養老郡養老町

佐藤 咲楽

啓蟄や光集めて鋏の先

大垣市

高田 雅章

鈴ひとつ鳴らす自転車風光る

大垣市

遠藤 加容子

持ち歌は母校の校歌卒業す

三重県四日市市

藤田 勝民

選者吟

女子高生の国歌独唱春の空

武 直



一般の部